



股関節の痛みを理解し、向き合っていく！

～変形性股関節症って何？～

整形外科 西川 洋平

高齢化社会や日常生活の欧米化に伴い、体のさまざまな関節が痛くなることが多くなってきています。

様々な関節のなかでも、股関節は体幹と下肢を連結する球関節であり、立位や歩行などの下肢機能において最も重要な役割を果たしています。

股関節が痛くなることで歩行障害などを起こし、日常生活にも支障がでてきてしまいます。その股関節痛を引き起こす原因の一つとして、変形性股関節症が挙げられます。

変形性股関節症とは、股関節に発生する変形性関節症であり、関節軟骨の変性や摩耗(すり減り)による関節の破壊や反応性の骨増殖を生じる結果、股関節に変形をきたす非炎症性疾患とされています。

変形性股関節症診療ガイドラインでは、発症年齢は平均 40-50 歳代、単純レントゲン撮影による日本の有病率は 1.0-4.3%であり、男性は 0-2.0%、女性は 2.0-7.5%と男性に比べ女性が約 7 倍と高い傾向にあります。



変形性股関節症には原因があきらかではない一次性股関節症と、何らかの原因により続発する二次性股関節症に分けられます。本邦では、二次性股関節症のなかでも先天性股関節脱臼や寛骨臼形成不全などが原因に挙げられます。

変形性股関節症の症状としては股関節周囲の痛み、運動制限、異常歩行などがあります。

⇒裏面もご覧ください。